

## VIII 飼料作物・牧草

### 1. 飼料用とうもろこし

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	ダイアジノン粒剤5	散布	収穫60日前まで	2回以内	

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
4	クルーザーFS30	塗沫処理	は種前	1回	

・忌避剤（参考農薬）

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
キヒゲンR-2フロアブル	塗沫処理	は種前	1回（チウム2回以内）	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

### 2. アルファルファ

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	スミチオン乳剤	散布	収穫14日前まで	2回以内	まめ科牧草

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

作物名	病害虫名	防除時期	防除方法	注意事項
飼料用とうもろこし	すす紋病 ごま葉枯病 根腐病	全期	1. 抵抗性品種を用いる。 2. 連作を避ける。 3. 有機質及び窒素とカリを増施する。 4. 深耕を心がける。 5. 適期に収穫する。 6. 排水を良くする。	1. 早期に肥切れすると発病が多い。 2. すす紋病は夏期に低温多湿となると発生しやすい。 3. ごま葉枯病は高温多湿で発生が多い。 4. 根腐病は刈り遅れると発生しやすい。
	すじ萎縮病	生育初期	1. 抵抗性品種を用いる。 2. 多発地帯では、は種をやや遅らせる。	1. ヒメトビウンカの飛来最盛期が幼苗期と一致しないのは種時期とする。
	カラス・ハト (は種～発芽時の鳥害忌避)	は種前	[参考農薬] 1. キヒゲンR-2フロアブルの原液 20ml を種子 1 kg に塗沫処理して、は種する。	1. 塗沫処理後の種子は風乾後は種する。 2. 粘度が高いので良く振ってから使用する。 3. キヒゲンR-2は、水産動物に対して影響が強いので注意する。
	ハリガネムシ (コメツキムシ類幼虫)	は種前	[参考農薬] 1. クルーザーFS30を種子 1 kg 当り原液 6ml 塗沫処理して、は種する。	1. 塗布処理後の種子は風乾後は種する。
	タマナヤガ	全期 は種後 1 か月以内	1. 周囲の雑草を防除する。 2. カリ肥料を十分施用する。 1. ダイアジノン粒剤 5 を 10a 当り 6 kg 散布する。	1. 散布後 60 日間は収穫給与しない。
ソルガム	すす紋病 紫斑点病 紋枯病	全期	1. 抵抗性品種を用いる。 2. 密植、刈遅れを避ける。 3. 連作をさける。	1. 特にスーダングラスはすす紋病に弱いので注意する。
牧草	すじ葉枯病 葉腐病 菌核病 白絹病	全期	1. 抵抗性の強い草種を用いる。 2. 圃場の排水を良くする。 3. 過繁茂、刈遅れを避ける。 4. 激発時は早期に刈り取る。	1. 肥切れの時に発生しやすい。 2. 過繁茂、軟弱徒長で発生が多い。
アルファルファ	アルファルファタコゾウムシ	1 番草 生育期	1. スミチオン乳剤 1,000 倍液を 10a あたり 1500 散布する。	1. 中齢幼虫の密度が高くなる 4 月下旬から 5 月上旬に散布する。

#### 総括注意

飼料作物や牧草は茎葉をそのまま、大量に利用するため、できるだけ薬剤防除を避け、耕種的な対策を用いる。